

## □第4回大津市中心市街地活性化協議会 議事録

---

日 時： 平成20年5月1日（木） 午後3時00分～午後5時00分

場 所： 大津市浜大津一丁目4番1号 社会教育会館

参加者： 委 員 酒井、遠藤、宮崎、三上、山田、別所、山本、北嶋、八森、柴山、  
勝見、木村、中井、福井、白井、井上、伊津田、高田  
オブザーバー 瀬石、森脇、奥村  
事務局 高栖、山下、小西  
大津市 寺田、堀出、高木、本間、杉本  
その他 大津商工会議所、立命館大学政策科学部4回生3名、  
報道関係2名

(50音順・敬称略)

---

### 1. 開会（まちづくり大津 事務局）

### 2. あいさつ（酒井会長）

### 3. 大津市中心市街地活性化基本計画策定に関する進捗報告(大津市・寺田)

### 4. 議題

#### (1)大津市中心市街地活性化協議会規約の変更について

事務局より資料に沿って説明後、全会一致で承認

#### (2)プロジェクトの進捗状況について

##### ①エコセンタープロジェクトについて

中井委員より資料に沿って説明

#### <意見交換>

- ・立命館大学政策科学部4回生が市のパワーアップ事業に「子どものためのエコツアーのとりくみ提案」としてエントリーしている。是非プロジェクトの一助として欲しい。  
「環境教育」と「環境学習」の用語を統一した方が良い。  
エコセンターコアの機能、イメージをはっきりさせる必要があるのではないかと。誰でも自由に訪れることができ、お茶でも飲めるようなイメージのコアが望ましいと思う。また、協議会のような場所だけで発表していくのではなく、市民に広くフォーラムなどを開催して公表してつくっていく必要があると思う。
- ・オプテックスオパールがオープンして年間1万人の利用があり、内3,000人位が修学旅行生となっている。修学旅行が見学型から体験型に変わっている中、まちなかと湖上でのエコを、どのように連携されるか、どう遊ばせるかを考えていくことにより、少なくとも浜

大津で1泊、そしてさらにもう1泊とつながるのではないか。

- ・琵琶湖文化館においては、大津J Cの有志がなんらかの提案をしたいという動きがある。琵琶湖トラストのまちなか版と一緒にやって欲しい。
- ・オーパルとは連携していきたいと思っている。
- ・資金の面で提案があればと思っている。
- ・良い企画を提案したら資金は集まる。国も柔軟になっているので、ハードは難しいかもしれないがソフトなら国からの補助金を受ける可能性はあると思う。
- ・協議会として資金が必要ではないか。
- ・今ある船で環境学習船にならないか
- ・以前からやっている「うみのこ」とどう違うのか。
- ・身動きしやすい船で琵琶湖を利用してエコツーリズム。
- ・まちづくり会社とエコセンターコアはどう整合するのか。
- ・まちづくり会社とは別の事業だ
- ・協議会は意見の調整の場で、その下にプロジェクトがあり、そこをどう動かすか。資金をどうしていくのかという課題の提起だとうけとめてはどうか。
- ・(仮称)大津エコセンターの名前はどこで決定されるのか。早く決めないとこのまま周知化されていく。
- ・プロジェクトの中で決めていきたい。

## ②おもてなし情報発信プロジェクト

福井委員より説明

- ・5月中旬に第1回を開催予定
- ・秋には食と灯り等事業を引き継いでやっていく。
- ・情報発信というのは、集約していかないといけないと思っている。
- ・メンバーがまだ確定していない。

### <意見交換>

- ・観光ボランティアというの、おもてなし観光プロジェクトにはいるのか。
- ・おもてなしという面で育成していきたい。

## ③町家利活用プロジェクト

白井委員より説明

- ・今後3軒はオープンして欲しいということで、情報収集中。
- ・百町市を定着させて、町家の活用につなげていきたい。
- ・エコセンターにもおもてなしにも町家利活用のプロジェクトが関わる必要があると思う。連携しながら会議を進めていく必要がある。

#### <意見交換>

- ・龍谷大学が町家キャンパスをオープンした。また、パワーアップ事業補助金で町家活用しているところもある。

#### ④地域 IC カードプロジェクト

木村委員より説明

- ・5月に第1回プロジェクトを開催する予定。メンバーとしては、まちづくり大津、商店街石川氏、商工会議所の大津商工会委員西村氏。
- ・大津で可能か、活性化につながるか等、勉強会から始めていきたい。

#### ⑤寺町通り再生

北嶋委員より資料に沿って説明

#### <意見交換>

- ・事業の範囲はどこまでなのか。
- ・大津駅側の寺町通商店街の入口から百石通りまでの約200m
- ・まず寺町通商店街で実績をつくって下につづけていきたい。逢坂学区自治会に3月末、4月末、提案をいただいている。今は、周辺自治会の同意となっている。
- ・基金とは何を指すのか
- ・平和堂から大津駅前周辺のための寄付を受けており、現在大津市が預かっている。その寄付金を寺町通りの整備のために利用する時期がきた。

#### (3)平成20年度大津市中心市街地活性化基本計画の事業確認について

事務局より資料に沿って説明

#### <意見交換>

- ・平成20年度にもエコセンター事業は行うが、資料では21年度からとなっているのはなぜか。エコセンター事業はハードだけではなくソフト事業も含まれるので、20年度からと記載すべきなのではないだろうか。
- ・本年度国の補助を受けられなかったハード事業に関しても、国の補助を受けるために引き続き国との協議を進めていくため、基本計画上では21年度からと記載している。しかし、ソフト事業もあるので、平成20年度から平成21年度に修正したい。
- ・事業というのは変更していくものなのか。
- ・毎年変更することができる。
- ・びわ湖ホール活用事業とは何になるのか。
- ・事業者にやりたいという意志はあるが、具体的な内容が決っていないことに関しては、と

りあえず記載して、事業時期を遅めに設定している。しかし、今後の基本計画の変更で事業時期を修正していく。

- ・補助申請はどこにするのか。
- ・省庁ごとにするようになる。
- ・なぎさ公園の進捗状況は。

#### ①オープンカフェについて

事務局より説明

- ・設計イメージの公募について
- ・テナントは5店舗

#### ②今後の取り組みについて

事務局より説明

- ・商店街へあいさつを行い、各団体と連携しながら事業を進めていく。
- ・大津まちなかで行っているイベント等をリストアップしていく。

#### <意見交換>

- ・リストアップは大切だと思う。しかし、既存のイベントに加えて楽しいもの、おもしろそうなものをもっと必要だと思う。全国的な発信力のあるものができるか。

#### (4)その他

- ・資料「大津市中心市街地活性化基本計画に掲載している事業の一覧」の40・41番(交通体系に関する事業)はどう進めるか。
- ・これまでの経過の中で必要とされたものであるが、事業自体が決っていない。今後実現に向けて検討していきたい。
- ・大津市全体の交通体系の会議(大津市地域公共交通活性再生化協議会)はある。どうこの協議会と調整するか。
- ・大津市地域公共交通活性再生化協議会は、市全体の公共交通について協議をおこなうものである。40・41番の事業とは異なるものである。

次回 7月3日 社会教育会館 午後3時より

#### 5. 閉会